
トリックスター 0 短編 ~ ある午後の昼下がり ~

羅月 -Ragetsu-

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致しません。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トリックスター0短編〜ある午後の昼下がりに〜

【Nコード】

N1050V

【作者名】

羅月 - R a g e t s u -

【あらすじ】

とある島にある学校の図書室で、今日も静かな雑談が行われていた……

(前書き)

トリックスターにはまっていた大学一年の初めの頃に書いたものです。あの頃はネットゲする暇があっただな〜と感慨深くなるものが

W
W

「あ、いらつしゃいませ」

「頼まれた品、持ってきましたよ」

ここはとある名のある島にある名のある学校。島中の子供はここに十年以上通い、最後まで通学を続けた者だけが将来を約束された仕事に就くことができる。

まあこの島は娯楽も仕事もたくさんあふれているから、どうしても卒業しないといけないわけでもない。

ここはそんな学校の高等部の図書室。巻いた角を左右の頭に生やしたもここのピンクの髪をしたこの人は高等部文学科3年のメリル先輩。卒業後は島立図書館で司書になるらしい。

司書テーブルで会話するドラゴンとシープ。おっとりした先輩と神経質な自分は意外と合っているらしい、周りの評価的には。

「あ、持ってきてくれたんだ、いつもありがとね、レン君」

「と言うか先輩、学校の本を食べちゃだめっていつも言ってるじゃないですか、責任とれませんかよ俺」

「魔法で何とかすりゃいいじゃないの。ひょいひょいっと」

「そんな便利な魔法はありません、シープで首席の貴方が知らないわけでもあるまいに」

ドラゴンの角をかりかりと掻く僕。彼女は名作を食べてしまっ、どこかで聞いたことのある習性をもっているのだ。いつも印刷された

量産ものは嫌いだと言っているくせに、好きな作家の本は別腹か。

「まあ、メインディッシュが来たから許してあげる……ほうほう、私を読んだところをちゃんと記録してあったのね。そこでそこから先を、ちゃんと高級鉛筆で丁寧に、丁寧……はむっ」

「ああまた食べたっ！先輩が手書きの字が読みたいうって言うからわざわざグーテンベルクの恩恵も使わずに頑張ったのにつ……！」

「だって美味しそうなんだもん。あれだよ、すっごく良い匂いのするディナーを前にお預けくらう気分」

「だとしてももうすぐ卒業なんだから節度をわきまえてください」

この時期、あまり図書室に入ってくる人は少ない。まあテスト期間だし、昼休みにわざわざ遠くの図書室まで来る人もいないだろう。自分を除けば。

「こんどもまた作ってきてね、美味しいやつ」

「また食べるんでしょ。だったら内容なんて一緒じゃないんですか？」

「それは違うよ。だって……」

「お腹の中、こんなにほっこりあったかいよ」

何を言っているかわからず、詩人らしく飾った言葉を模索して、結局無理なので何とかまともな言葉を絞り出す。紙の上では饒舌な自分だ。

「じゃあ、帰りますよ。先輩は次の授業無いかもしれませんけど」

「いや、あるけどね。何かここでさぼってたい気分」

「いやいや、先輩に勉強で勝てない全校生徒に同乗しますよ」

「あ、そうそう。さっきの手紙のご用事なあに？」

「あれは手紙じゃありませんしあなたは羊だつて事を再認識してください」

こんなことばかり言っている、どうせ自分はまた彼女のために物語を紡ぐのだ。主人公は貴女と僕の、甘い甘い、スイーツみたく綺麗な恋の物語を。

自分の物語を誰かに読んでもらうのは幸福な事だ。そして良い評価がもらえればさらに幸福だ。

だけど、自分みたいな作家は誰一人としていないだろう。

自分の作品を、『美味しい』と言って食べてくれるお客様がいる作家なんて。

(後書き)

かなり短いです。実は続編も必死で考えていたのですが、どうしても繋がらず断念しました。レンとメリル先輩の話は此処で終了と言う事で。過去の作品ではドラゴンの名前はレウスでしたが、格好悪いので変えました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1050v/>

トリックスター0 短編～ある午後の昼下がりに～

2011年10月9日11時28分発行